

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### ●九州大学法学府国際関係法学専攻

##### 「クラスターによる最先端法学修士課程の構築」の事例

(具体的に何を実施したのか)

九州大学の法学修士プログラム(LL.M.)は、1994年の発足当初から、個々の学生が特定の研究室に所属して指導を受ける旧来の教育体制とは全く異なるコースワーク中心のカリキュラムを編成してきたが、平成19年度から3年かけて、(1) グローバル・ガバナンス と企業(Global Governance and Corporations)、(2) アジア経済ビジネス法(Economic and Business Law in Asia)、(3) イノベーションと法(Innovation and Law)、(4) 法の基本的パースペクティブ(Fundamental Perspectives on Law)の、4つの教育・研究クラスターに再編し、新カリキュラムを構築した。各クラスターにおいて、教員は各分野における最先端の研究と直結した授業を展開する。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

クラスターの組み立てにあたり、プログラムの独自性と教員の研究分野の両方に意を払った。さらに、受講者が特定のクラスターに偏らないような科目配置、1年間の学期中緊張感が途切れないようにするための前期と後期の科目配置、に意を払った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本取組前は、各教員の科目は体系性なく一絡げにしてオファーされ、学生は自由に受講することがゆるされていた。また前期で修了に必要な数の大半の単位を集めてしまう現象も散見された。しかし、この取り組み開始によって、1年間の過程が見通しのきくものになると同時に、修士論文にも力作が現れるようになった。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### F. その他

#### ③積極的な情報提供体制の確立

##### ●九州大学法学府国際関係法学専攻

##### 「クラスターによる最先端法学修士課程の構築」の事例

(具体的に何を実施したのか)

プログラム HP の拡充発展

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

カリキュラムのほか、これまでに開催してきた国際シンポジウムの記録や、客員講師による講義のデジタル・アーカイブ化をすすめ、またコースのパンフレットを画面上でページを繰って読めるようにするなど機能を常時向上させている

(<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programsinenglish/>)。また、LL. M. コース学生全員の論文タイトルをアップロード

(<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programsinenglish/cluster/output.html>) するとともに、学内限定でそのアブストラクト、作成途中の論文をアップし、学生相互間で参照して切磋琢磨できるように設定している。必修科目の Legal Research Methodology and Writing の授業はこのシステムを駆使して行われている。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

外国の大学からの提携申込みが急増した。